

# 中田かわら版 1月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■ この人に会いたい<21>

### 多才多芸の地域功労者 小島敏子さん (広町)

昭和47年9月、主人の転勤で中田に居を移しました。昭和59年、神奈川県と横浜市の統計調査員となり調査のため区内を走り回りました。それが後の福祉の活動に大いに役立ちました。昭和61年11月、泉区が戸塚区からの分区に伴い、立場地区センターが設立され第一期図書館司書に。

昭和63年、16ミリ映写技術認定、横浜市視聴覚センターに登録。「広町マザークラブ」を立ち上げ、視聴覚センターのフィルムライブラリーを活用しクラブの人たちを楽しませました。同3月、泉区ボランティア連絡会、個人ボランティアに登録。同連絡会の要請で精神障がい者と支援

の集いに参加。4月、当事者の話し合いを編集し「芽生え」第1号を発行、現在334号に至る。5月、拡大写本の会「れんげの会」を設立。

9月、女性フォーラムのオープンに伴い、女性フォーラム市民交流会に参加、10月横浜美術館司書として勤務。平成元年12月、民生委員・児童委員5期15年務める。精神障がい者施設「四季の会」を32名で設立。平成3年4月、「四季工房」ができる。5月、スクエアダンスを習い始める。この年から親の介護が始まります。4、5時間の時ができるとうとう東京まで介護に向かいました。平成7年、泉区地域活動計画策定委員。各団体の代表、区役所関係者、大学の専門の方々が集まり協議しました。2月、泉区地域福祉活動計画に参画、「愛の笑顔のまち」「横浜市泉区社会福祉協議会」の編集から挿絵まで手がける。9年、泉区ボランティアハウス、泉区ふれあいホーム、平本区長諮問で設計から手がけました。10年、泉区更生保護女性会理事。12年、中田社協の会計を10年間務める。ホームヘルパーの資格をとる。

小島さんは、幼い頃、体が弱くお母様には、大変心配かけたので感謝の気持ちを忘れないようにとのこと

です。13年、警察協議が発足、平成17年5月まで4年間務める。平成15年、子育てサロン「広町ひまわり」支援と子育て支援。子育て支援は全国でも泉区更生保護会しか行っていないため日本更生保護会からも大いに評価され表彰されました。

同年、「かっぽれ」を習い始める。家においてのお母様を少しでも慰められると考えたとき、かっぽれに出会い披露することができました。18年、泉区老連女性部委員、手読みダンスを始める。今は三味線も修行中。

小島さんは藍綬褒章の井上静子さんを永年陰ながら支えてきた功労者であり、現在も泉区更生保護女性会の副会長



かっぽれを踊る小島さん (右)

を務め、中田地区社協の評議員でもあります。「老人ホーム、各地のお祭り、イベントなどで私のかっぽれ、手話ダンスを楽しんで下されば、私の人生『良し』と思っています。足が動かなくなるまでがんばります」と小島さん。約30年多岐にわたる活動しながら両親の介護や家庭を守り、ご自身の趣味にがんばるすばらしい人柄に感じ入りました。

(編集委員 木下良江・市川栄二)

～一人ひとりがCO<sub>2</sub>を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

# 2月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

## 【立場地区センターまつり】

2月13日(土)

- ・ 10:00～16:00 地区センター利用団体の実技発表や作品展示など

2月14日(日)

- ・ 10:00～12:20 中田中学校吹奏楽部、和泉小学校合唱、東中田小学校マーチングバンド、演歌コンサート（響あゆみさん）
- ・ 10:00～14:00 作品展示
- ・ 10:00～14:00 バザー 他、赤飯販売

## 【囲碁将棋大会】

日時：2月7日(日)

受付：8:30 (9:20 開会式)

場所：中田町会館2階

- ・ 今年の名人は誰の手に！恒例の囲碁将棋大会を開催します。

参加費：¥500- (昼食代)

参加者：小・中学生・一般 (高校生以上)

申込：各町内会・自治会文化部長まで

## ■ 汲沢中学校

### 「新聞コーナー」で生きた社会勉強

「生徒の皆さんに新聞に接し、親しんでほしい」——栗原史生校長の永年の願いだった「新聞コーナー」が今年4月から設けられている（写真）。昼休みや放課後に生徒たちが熱心に新聞のページをめくる姿が目立つようになった。1階昇降口の近くの一角に各社の朝刊が机に並べられている。朝日、毎日、読売、産経、東京、神奈川新聞の6紙が新聞販売店の好意で行われているが、日本新聞協会が教育の一環として協力している。

最近、各家庭では新聞をとる家が少なくなっており、新聞を見なくなる生徒も増えると思われる。特に生活に密着する情報不足や社会、政治、経済の動き、文化面などの連携が希薄になり、考えたり分析する力、自己発信などが弱くなるのでは、ということが懸念されている。新聞が日常における教育、学習の中に果たす役割は大きいことは、以前から言われてきた。ここ数年前から



新聞を読む生徒たち



6紙並んだ新聞コーナー

NIE (エヌ・アイ・イー) newspaper in education (教育に新聞を) という言葉が言われるようになった。

実は栗原先生は14、5年前、まだ社会科の先生の時代、いつかこうしたことを実現したいと考えていた。ここ汲沢中学校に赴任して4年目にその希望が実現したことになる。

ことし7月、教育現場での新聞の効果的な活用を考える第20回NIE全国大会が秋田市で開かれた。今年のテーマは「『問い』を育てる～思考を深め、発信する子どもたち～」。

教育関係者が1千人が集まった。新聞を学校の授業などで教材として活用し、興味や関心の幅を広げる取り組みは1930年代に米国で始まった。日本では1985年に日本新聞協会が提唱し本格化した。学校ぐるみで取り組みをすすめる今年度のNIE実践指定校も全国で545校にのぼる。

汲沢の生徒たち1人ひとりが新聞の記事に関心を持ち考え、学んでいけば、それは素晴らしいことだと思う。栗原先生の熱意はやがて全校に浸透し、近い将来大きく実を結ぶことだろう。（編集委員・宮田貞夫）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。[www.odoriba-cp.jp](http://www.odoriba-cp.jp)へアクセス！！